

都市の中・現在のお祭

みなさんは六月ウマチー（旧暦六月十五日）というお祭を知っていますか？

『琉球国由来記』（一七一三年）には稲大祭と記され、収穫後の稲の祭（豊年祭）となっています。地域によっては粟の穂祭とされている場合もあります。

わが町・西原ではむかしから稲大祭として行われてきました。

今年の六月ウマチーは八月六日に当たり、各ムラで行事が行われました。

実は以前（平成七年七月号）の広報にしはらに幸地の五月ウマチーについて述べました。そこで今回、その継続として幸地の六月ウマチーに同行することになりました。



今回初めて訪れたナカヌウタキ

幸地ノロの後継者がいない現在では、幸地ノロ殿内の与那嶺次郎さん、与那嶺幸盛さん、区長の仲宗根精市さんが、幸地ノロのかつての管轄地である幸地・翁長の拝所をまわります。

五月ウマチーでは、十五カ所でしたが、今回はなんと二十三カ所の拝所で祈願を行いました。

その中には、私が初めて訪れる拝所もあり、「まだまだ知らないことがたくさんあるんだ」と改めて思い知らされました。

以前は白馬にまたがったノロを先頭に祈りが行われ、ムラの人々もお祭の日には畑を耕してはいけない、三線を弾いてはいけないなどの禁忌を守っていました。

現代では稲作も行われておらず、ノロなどの神人もいません。しかも、都市化したアスファルトの道を車で移動し、稲穂を捧げることもしません。しかし、今なおムラの有志や各門中の人々によって祭が行われているのです。なぜ人々は祈りを続けているのでしょうか？どう

町史係 山里 奈美



屋号・シチャナカジョー（個人宅）の井戸を拝む

してこの場所を拝むのでしょうか？むかしの形が失われたとされる現代のお祭の中にもきつと何らかの情報がかくされているに違いありません。

とても暑かったこの日、汗だくになってたくさんの拝所をまわり、神酒であるウンサクをいただきながら、私のなかのたくさんの疑問について想いをめぐらせたのでした。

その疑問をひとつひとつ解いていくためにも、「もっとたくさんの祭や拝所などをみてみなくちゃ」と決意を新たにしています。